

札幌で働く女性の
1日をCheck!

CASE 4



たんの けいこ
丹野 桂子さん

夫(38歳)と2人暮らし。

39歳。販売・事務職を経て、
2004年、現在の職場(商社)で
営業アシスタントとして働き始める。
趣味は自宅でのジェルネイル



あえてハッキリした家事分担はしないという丹野さん。基本的には自分主導で行い、必要なときに手を借りるスタイルです

“完璧な家事”を目指すとキリがない。
無理せず、心地よく暮らす工夫を見つけない

あえてルールは作らない
役割分担は自然に生まれる

結婚6年目の現在も、独身時代と変わらず働く丹野さん。でも、結婚当初から家事の分担を決めることはしなかったそう。理由は「独身時代と家事のルーティンがあまり変わらないこと、担当を決めて『(担当なのに)どうしてやらないの?』とイラッとするのがイヤだから」。現在は料理と洗濯・主な掃除は丹野さん、朝のゴミ出しと「彼のこだわりがある」というお風呂&トイレ掃除は夫が担当。2人の暮らしを重ねるうちに、自然に生まれた習慣です。

家事をシェアするときは
“理由”と“目的”をハッキリさせる

そんな丹野さんも、「1人で全部家事をしようとしてイライラ。家庭内の空気も悪くなった」時も。今は、夫に料理や洗濯を手伝ってもらうこともあります。心掛けているのは「してほしいことを具体的に伝える」こと。どうして手伝いが必要なのか、そしてどういう目的なのか。理由や目的をハッキリ伝えるようにしているそう。例えば鍋を混ぜてもらったら「いま〇〇をしていて手が離せないから、鍋の底が焦げないように混ぜてくれる?」という具合。「男の人に“察して!”はナンセンスかな、と(笑)」。

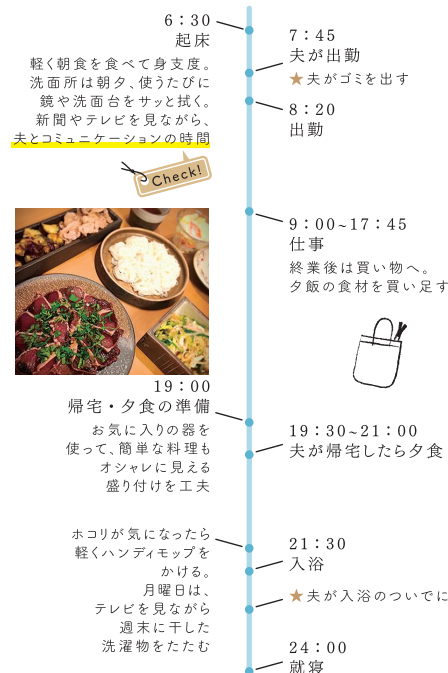
無理なく、心地よく“それなり”に見える工夫を

今後の目標は「手を抜いても“それなり”に見える工夫を見つけること」と話す丹野さん。例えば、最近は食器を集めているそうで、「時間がなくて、買ってきたお惣菜やお刺身で夕食にする時も実はあるんです。でも、素敵な器に盛りつければ手抜きに見えないでしょ?」と笑います。「完璧な家事を目指すとキリがない」という丹野さん。自分らしく無理のない、心地よい生活を目指しています。

丹野桂子さんの
MY“ゆる家事”ルール

「察して!」と思っているだけでは伝わらない。
してほしいことは、具体的な言葉にする

Working day
仕事の日



丹野桂子さんの1日

Holiday
休みの日



田川さん's
Check

コミュニケーションの時間を取ったり、器に気を配ったり、夫との時間を大切にしているのが素敵です。要望を具体的に・論理的に伝えることは意思疎通を図る上で大事なことです。事務的にならないよう、愛情を込めた笑顔で感謝を伝えるといいですね。

